



高校魅力化評価システム 説明資料～①内容編～



高校魅力化を進める上での2つのモデル

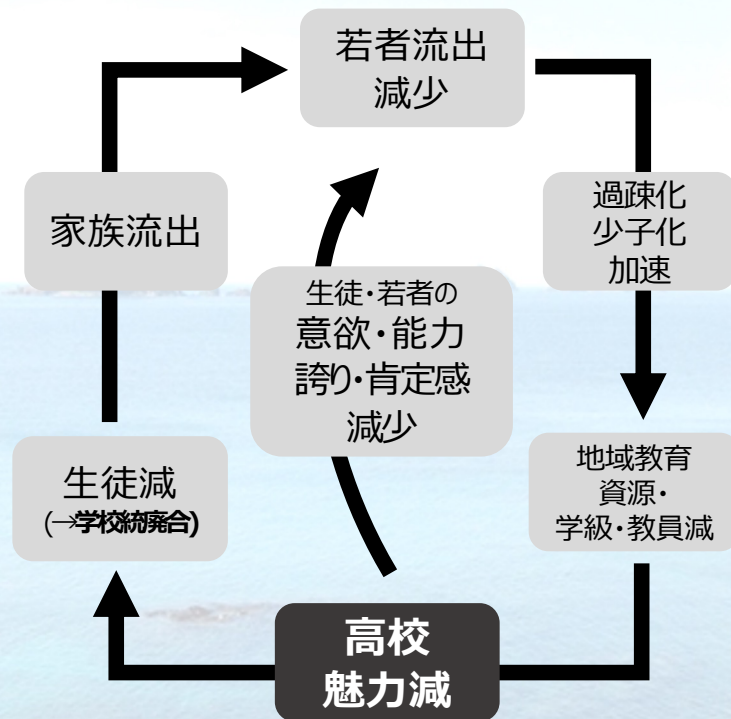
(現状が見える化されていない状態)

- ・生徒募集の結果のみ着目し、要因分析ができていない
- ・地域・高校の特徴が不明瞭なため、打ち手がわからない
- ・エビデンスがなく、事業効果が測定できていない

(現状が見える化されている状態)

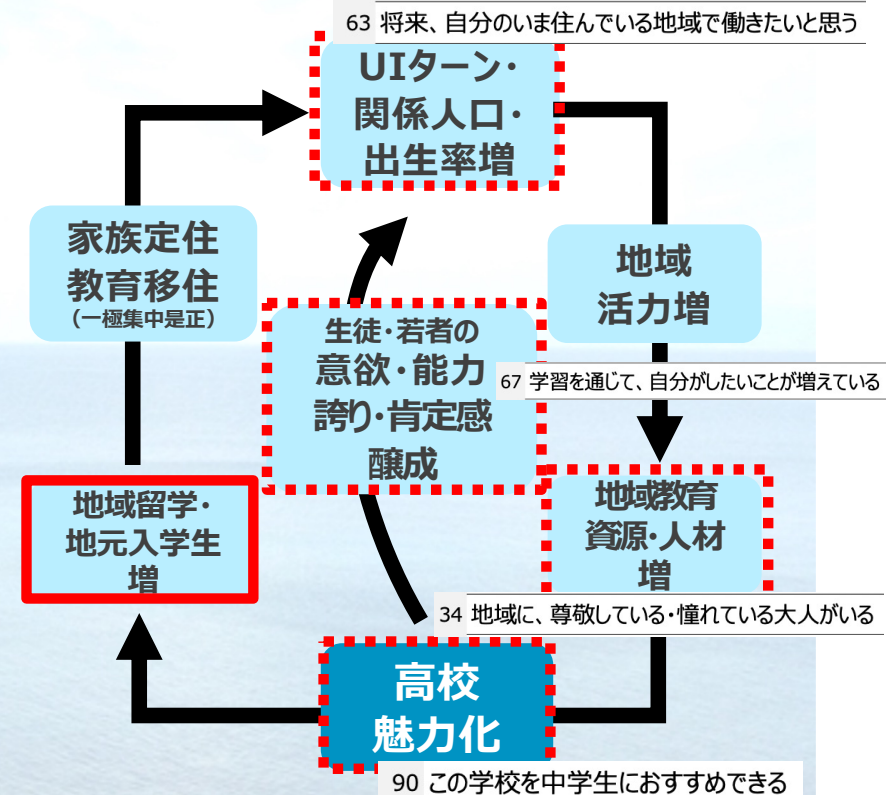
- ・生徒募集の結果につながる要因分析ができています
- ・地域・高校の強みや課題が共有、発信されている
- ・事業効果を測定するためのエビデンスが毎年取れている

全国各地に広がる悪循環



教育・地域過疎化スパイラル

人づくり・人の流れづくりの好循環



地域・教育魅力化スパイラル

現状の見える化による3つの効果

高校魅力化評価システム導入により「現状を見える化」し、
「募集活動にも活かせるデータ」と「事業評価のエビデンス」を同時に提供

3つの 効果

① 現状把握

地域・高校の現状の強み・課題を見える化することにより、
募集活動にも活用できるデータを取ることができます。

② 対話ツール

地域と高校の協働の場面で対話ツールとして活用し、
募集活動を効果的に行うための改善につながります。

③ 事業評価

高校魅力化による事業効果（＝生徒・高校・大人の変容）を
測定でき、事業を継続的に行うエビデンスとして役立てます。

事業評価ツールとして
全国約300校での導入実績



高校魅力化に関する
全国事例に基づく知見

高校魅力化評価システムとは？

弊財団と三菱UFJリサーチ&コンサルティング社が開発した、
「生徒の成長」と「学びの土壌（学習環境）」等を見える化し、
エビデンスと対話による**政策マネジメント**を促進するための評価ツール。
2024年度には、**全国47都道府県の367高校（120,240名）**が活用。

高校の生徒、教員、そして高校教育に関係する地域の大人等に対して、Webアンケート調査を実施し、地域・高校の魅力・強み、課題・伸びしろが、ひと目でわかる分析結果を提供

✓ 生徒向け

- ✓ 原則、回答校の全生徒対象
- ✓ 70-90問程度の選択形式（Webアンケート）
- ✓ 所要時間20-30分程度

✓ 大人向け

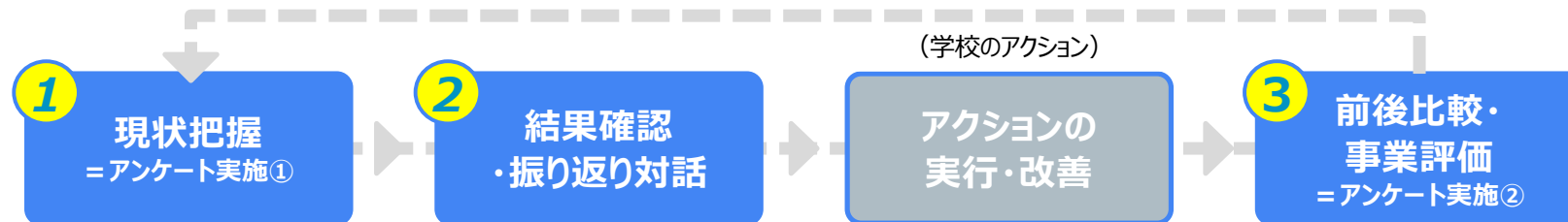
- ✓ 回答校の教職員・コーディネーター・その他回答校に関わる地域の大人等（30名程度想定）
- ✓ 30問程度の選択形式（Webアンケート）
- ✓ 所要時間10分程度

【提供されるデータ】

項目別比較	自校・自地域の重点指標が伸びているかがわかる。
他地域比較	同じように取り組む他校・他地域と比べて、自校・自地域の現状がわかる。
学年別比較	毎年の入学生状況など、学年ごとの凸凹がわかる。
経年比較	入学者数以外で、取組みの効果の有無がわかる。

年間を通した活用の流れ

高校魅力化評価システム導入により、年間を通じたPDCAサイクルの推進を支援します。



①現状把握

・生徒向け、大人向けアンケートを実施

(活用場面) 「地域の魅力や資源について考えるなどの項目で高い数値が出ているのが、自校・自地域の特徴として言えそうだ。生徒募集の中でも強調して発信していこう。」

②対話ツール

・次の一手を打ち出すための、対話・共創の場で活用

(活用場面) 「今年の入学生は、学びの意欲に関わる数値が高く出ているようだ。要因について、高校とも対話の機会を設け、新たな強みとなるよう協働を進めていこう。」

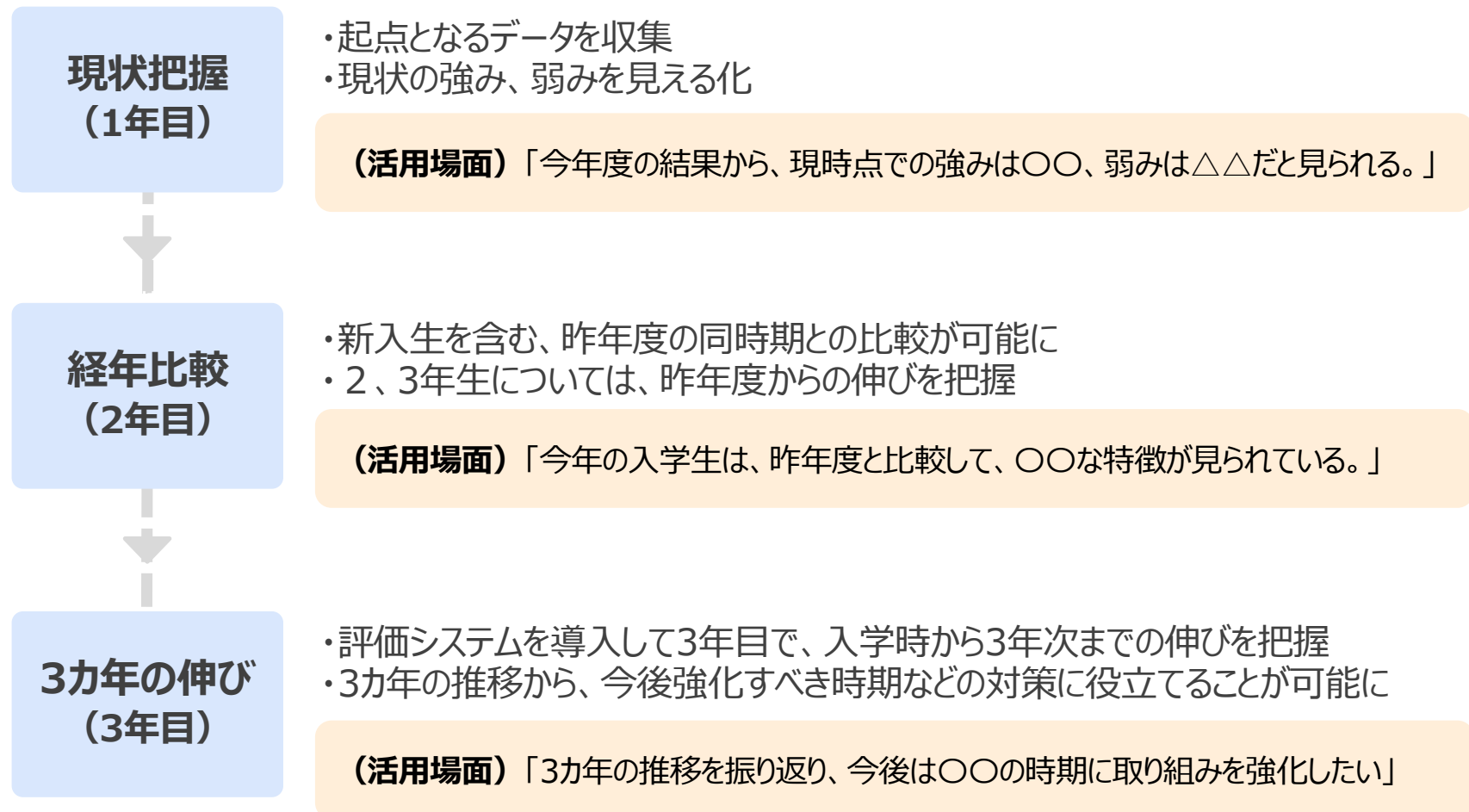
③事業評価

・年度内で同項目の2回目アンケート実施が可能

(活用場面) 「1回目アンケートと比較して、特に「社会性」に関わる数値は、大きく伸びている。事業効果として、対外的にも積極的に発信していこう。」

中長期的な活用イメージ

高校魅力化評価システム導入により、中長期的にPDCAサイクルの推進を支援します。



1. 「高校魅力化評価システム」とは ①調査の枠組み

「**学校の教育活動を生徒の視点から見える化**」する
組織診断ツールです

学校の教育活動を2つの側面から数値で見える化します

①学習活動



■ 学校・地域で生徒がどう学んでいるか？を指標化
→**明示的なカリキュラム**

②学習環境
(学びの土壌)



■ どのような環境の中で学んでいるか？を指標化
→**隠れたカリキュラム**

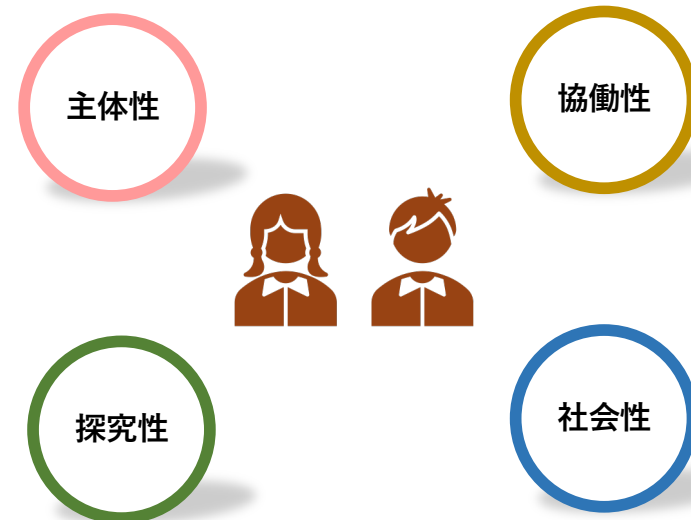
1. 「高校魅力化評価システム」とは ①調査の枠組み

「生徒の資質・能力の伸びを見える化」する
組織診断ツールです

3つの側面から



4つの領域から



1.「高校魅力化評価システム」とは ②調査項目

生徒向け調査の構造	主体性	協働性	探究性	社会性
①学習活動	主体性に関わる 学習活動の量	協働性に関わる 学習活動の量	探究性に関わる 学習活動の量	社会性に関わる 学習活動の量
②学習環境	主体性に関わる 学習環境の質	協働性に関わる 学習環境の質	探究性に関わる 学習環境の質	社会性に関わる 学習環境の質
③能力認識	主体性に関わる 生徒の自己認識	協働性に関わる 生徒の自己認識	探究性に関わる 生徒の自己認識	社会性に関わる 生徒の自己認識
④行動実績	主体性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	協働性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	探究性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	社会性に関わる 生徒のここ1カ月の行動
⑤ウェルビーイング	私の現在の幸せ “いま、学ぶための幸せ”	私たちの現在の幸せ “ともに学ぶ幸せ”	私の未来の幸せ “目標に向かい 学び続ける幸せ”	私たちの未来の幸せ “学びを未来に繋ぐ幸せ”

※詳しい質問項目については事務局までお尋ねください

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 ①学習環境への着目

生徒向け調査の構造	主体性	協働性	探究性	社会性
①学習活動	主体性に関わる 学習活動の量	協働性に関わる 学習活動の量	探究性に関わる 学習活動の量	社会性に関わる 学習活動の量
②学習環境	主体性に関わる 学習環境の質	協働性に関わる 学習環境の質	探究性に関わる 学習環境の質	社会性に関わる 学習環境の質
③能力認識	主体性に関わる 生徒の自己認識	協働性に関わる 生徒の自己認識	探究性に関わる 生徒の自己認識	社会性に関わる 生徒の自己認識
④行動実績	主体性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	協働性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	探究性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	社会性に関わる 生徒のここ1カ月の行動
⑤ウェルビーイング	私の現在の幸せ “いま、学ぶための幸せ”	私たちの現在の幸せ “ともに学ぶ幸せ”	私の未来の幸せ “目標に向かい 学び続ける幸せ”	私たちの未来の幸せ “学びを未来に繋ぐ幸せ”

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 ①学習環境への着目

＜聞き取り調査から実際に得られた、生徒の成長の背景・要因＞



- ・ 色々な人が行動しているのを間近で見て感化された
- ・ 日常生活の中で多くの人と触れ合う機会があった
- ・ 自分は自分で良くて、他人の夢や行動と同じようにしなくても良いと言ってくれたスタッフの人
- ・ 本気なら全力で応援してくれる大人・地域の人がいる
- ・ 色々なことをしている人をみてチャレンジすることへのハードルが低くなった
- ・ 先生との面談で夢を実現するためにどうすれば良いか明確になった
- ・ OBが地域に連れ出してくれたり、地域の人にあわせてくれたり、手伝いの楽しさを経験させてくれる

生徒の学びを深める学習環境に必要な4つの要素を抽出

**安心・安全の
土壌**

**多様性の
土壌**

対話の土壌

**開かれた
土壌**

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 ①学習環境への着目

生徒の周囲(学校や地域社会)における、学びにかかわる
人との関係性や、機会、雰囲気の有無について把握します

挑戦の連鎖を生む
「安心・安全の土壌」

- ・失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある
- ・自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる

協働を生む
「多様性の土壌」

- ・人と違うことが尊重される雰囲気がある
- ・立場や役割を超えて協働する機会がある

問う・問われる
「対話の土壌」

- ・将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる
- ・周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる

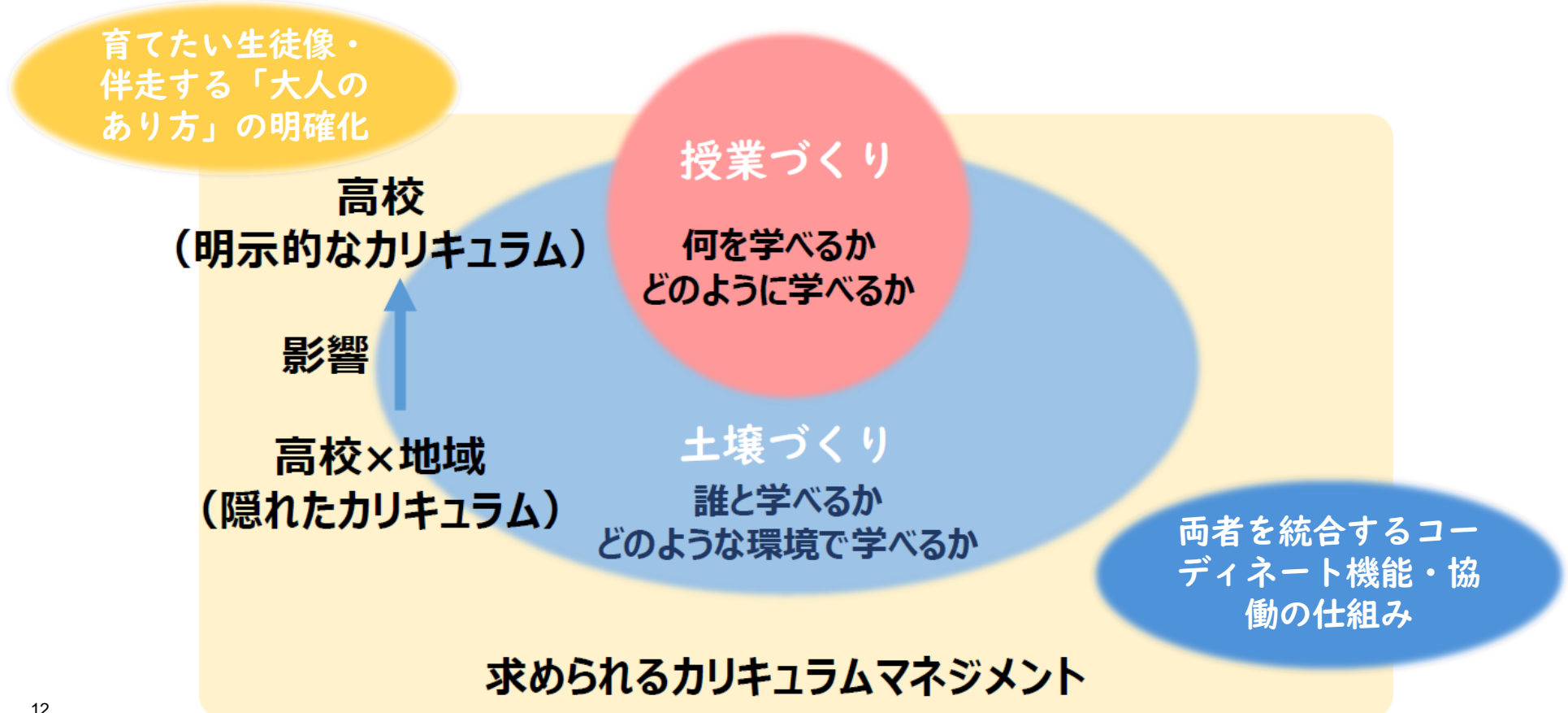
地域や社会に
「開かれた土壌」

- ・興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる
- ・地域の人や課題などにじかに触れる機会がある

※上記は抜粋です。実際にはさらに多くの質問をご用意しています。

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 ②学校改善への活用

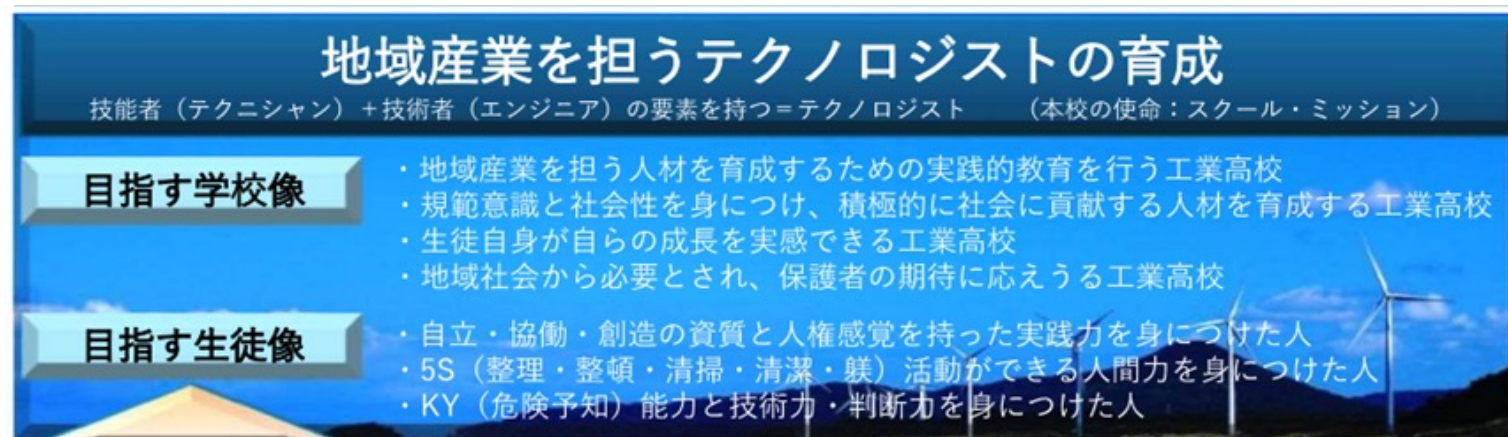
高校での学びのインプット、アウトプットに関わる多様な指標で、
学校の取組と生徒の変化のつながりを検討するための
データをご提供します。



2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 ②学校改善への活用

- 島根県教育庁では、2019年から全県立高校で高校魅力化評価システムを導入し、2019年2月に策定した「県立高校魅力化ビジョン」に基づく施策の評価の一部に結果を活用。
- 知事部局との部局横断プロジェクトの企画立案や予算の協議においても、こうした評価結果を共有することで、データに基づいて施策を検討することができている。
- また、県立高校における「グランドデザイン」の策定プロセスにおいて、教職員による生徒の現状把握、「育てたい生徒像」や教育活動の検討に評価が活用されている。「グランドデザイン」策定後は、各高校が「グランドデザイン」に基づく成果指標を設定し、毎年度取組みを検証することでPDCAを回して、教育活動のさらなる推進を図ろうとしている。

図表 江津工業高校グランドデザイン2022(一部抜粋)



出所) 詳しくは、[学校での「高校魅力化評価システム」活用事例レポート | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング \(murc.jp\)](#)をご覧ください。

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 ②学校改善への活用

図表 グランドデザインの成果指標の推移(島根県立江津工業高等学校)

1. グランドデザイン(目指す学校像・生徒像)の成果指標

※1) 太字は目指す学校像・生徒像。※2) Qは高校魅力化アンケート番号。※3) 数値は肯定的に回答した生徒の割合(%)

	R3				R4				R5			
	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月
1 地域産業を担う人材を育成するための実践的教育を行う工業高校	35.6		69.1									
Q14.地域の魅力や資源について考える	33.1		72.7									
Q15.地域の課題の解決方法について考える	32.5		75.3									
Q58.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	41.1		59.3									
2 規範意識と社会性を身につけ、積極的に社会に貢献する人材を育成する工業高校	46.6		64.7									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	56.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	62.3		76.0									
Q67.地域社会などでボランティア活動に参加した	21.1		43.3									
3 生徒自身が自らの成長を実感できる工業高校	84.8		84.7									
Q64.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	84.8		84.7									
4 地域社会から必要とされ、保護者の期待に応える工業高校	58.3		75.5									
Q19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	76.2		84.7									
Q29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	50.3		75.3									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	62.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	56.3		76.0									
Q57.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	49.0		74.7									
Q60.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	55.6		67.3									
5 自立・協働・創造の資質と人権感覚を持った実践力を身につけた人	76.2		86.0									
Q28.立場や役割を超えて協働する機会がある	61.6		74.7									
Q41.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	90.7		97.3									
6 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動ができる人間力を身につけた人	65.3		76.4									
Q38.目標を設定し、確実に行動することができる	64.9		76.0									
Q51.自分で計画を立てて活動することができる	65.6		76.7									
7 KY(危険予知)能力と技術力・判断力を身につけた人	56.3		69.3									
Q72.授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	69.5		67.3									
Q78.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	43.0		71.3									

出所) 詳しくは、[学校での「高校魅力化評価システム」活用事例レポート | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング \(murc.jp\)](#)をご覧ください。

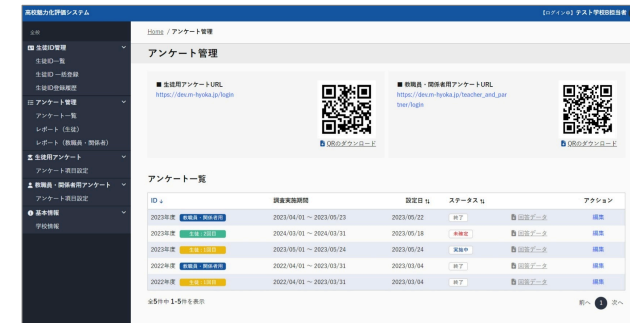
3.「高校魅力化評価システム」実施の流れ(概要)

STEP 1

設定

5-6月

- 本システムお申込後、管理者にアカウントを発行します。
- 管理者アカウントでログインいただき、調査実施のための各種設定を行います。
 - 1回のお申し込みで、同年度内に**2回**の生徒向けアンケート、**1回**の教職員・大人向けアンケートを実施できます。



STEP 2

実施

6月上旬
~7月下旬

- アンケート調査を実施します。

【①生徒向けアンケート】

- ・原則として回答校の全生徒が対象
- ・70問程度の選択肢形式のアンケート（30分程度で回答）
- ・個人ID、パスワード等でログインし、web上で回答

【②教職員・大人向け調査】

- ・回答校の教職員、コーディネーター、その他回答校に関わる地域の大人等（30名程度目安）を対象
- ・40問程度の選択肢形式のアンケート（10分程度で回答）
- ・学校IDと共通パスワードでログインし、web上で回答

質問4 あなたに関して、次のことはどれだけあてはまりますか。

うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む

あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
-------	---------------	-----------------	---------

家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する

あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
-------	---------------	-----------------	---------

現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる

あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
-------	---------------	-----------------	---------

STEP 3

結果の共有

8月
研修実施予定

- 調査結果はシステム上で閲覧できます。次のような比較で、各高校のスクールポリシーの進捗状況管理など、PDCAサイクルを支援します。
 - ・ 学年別、学科別集計など
 - ・ 自校と県平均値、全国平均値との比較
 - ・ 生徒の成長の経年変化
- 結果をもとにチームで振り返りを実施し、「次の一手」の検討にお役立てください。

